

結 成 宣 言 ~~(案)~~

私たち J R 東日本輸送サービス労働組合新幹線地方本部結成準備委員会は、赤羽会館小ホールにおいて全地本の仲間の見守る中、6 番目の地方機関として新幹線地本を新たに結成した。目的に掲げた労使対等の原則のもと団体交渉を強化し、職場で発生する諸課題の解決を通じて真の笑顔と活気あふれる新幹線職場を確立すること。また、すべての仲間と家族の生活を守り、未来を切り拓くために、組合員が安心して結集できる新幹線地本をつくり出すためのスローガンを満場一致で確認した。

2019 年 J R 東日本会社は、「変革 2027」に基づく組織再編にて新幹線に関わる各施策のスピード感を上げる目的において新幹線統括本部を発足させた。コロナ禍を乗り越え新幹線利用者が増加傾向にある中、新幹線に関連した事故・事象による輸送障害が多く発生している。

今年度の実行計画では「～安全で遅れない世界一の新幹線を創る～」が掲げられている。しかし、1 月 23 日、上野－大宮間で発生した架線垂下による大規模輸送障害及び協力会社作業員の感電事故、2 月 1 日にはやまびこ 65 号が仙台－古川間走行中可動ブラケット防護柵と衝撃。さらに、3 月 6 日つばさ 121 号が郡山駅にて約 520 メートル大幅滑走した事象は、2022 年度にも発生したつばさ 159 号と同じ事象であり団体交渉で原因が特定されるまで運用停止を求め、警鐘を鳴らし続けてきた矢先の事象であった。

今こそ「安全」が希薄化している J R 東日本・新幹線統括本部の経営体質を正し、安全で安心して働ける職場の構築と、この先の健全な J R 東日本をつくり上げるためにも新幹線地本の活動は重要な局面になる。

新幹線職場で働く組合員は各地方広範囲に点在しているが、各々の働く職場で発生する問題を一つひとつ会社と議論することが求められている。団体交渉権を活用して職場で発生する問題を即時に解決を図っていくこと。そして輸送サービス労組の運動の正しさ、必要性を未加入者にも訴え実感してもらい、組織拡大を目指していこう。

4 名の仲間が最先頭でつくり出した脱退パワハラ訴訟控訴審の結果は“あったことをなかったことにさせなかったこと”“あったことをなかったことになんてできるはずがないんだ！”ということを実証した。職場に戻れば一人かもしれないが、輸送サービス労組は、すべての仲間のために存在する労働組合だ。苦しむ仲間を置き去りにすることなど絶対にしない。

新幹線地本に結集するすべての仲間の力で、働きがい、生きがい、心の豊かさを実感できる職場風土の構築と組織の強化拡大の実現に向けてたたかいをつくり出していこう！

以上、宣言する。

2024 年 7 月 7 日
J R 東日本輸送サービス労働組合
新幹線地方本部結成大会